

「引張り、引張りと言ふ事がある物か、繫つんぎぢやろ」

「ヘイ、つないだら引張ります」

「縄でもつないだ様に云ふてなはる」

「これをお目玉へブラ下げます」

「お目玉へブラ下げる、それもお眼にかけるぢやろ」

「かけたらブラ下ります。これを云ふておかんとお祝儀ための都合がおますよつて、確にこれだけ申し上げときます。どうぞお祝儀ためをよろしゅうお願いいたします」

「甚い氣の毒ぢやな、こんな心配をして下さんでもえゝのに」

「ヘイ、心配して下さらんつもりでしたが、家へ戻つたらして下さらんとどむならん様になつたんで腹はペコ／＼に空いてるのに飯を喰ふにも米は無し、隣の源さん所で三十錢借つて段取を云ふてまけて貰ふて來たんだす。お祝儀ためをどうぞよろしゅうお頼み申します」

「あればつかり云ふてる、面白い男や、いや澤山包みませう、甚い氣の毒やな……喜イさん、こりや生貝やないか」

「ヘイ生貝で、これ三杯三十錢にまけてもろうたんで」

「これはお前が途中ではかうて持つて來てやつたんか、それともお前所のお咲さんが持つて行けと

云ふてやつたのか」

「家の嬢が持つて行けと言ふたんで」

「それでは折角やがよう貰ひまへん、お前が途中ではかうて持つて來たんやつたら貰ふておくが、それと云ふのはお前は町内で評判の阿呆や」

「左様々々、皆そないに云ふてくれはります」

「そんな事を自慢すな、お前所のお咲さんは女でこそあれ物事に心得のある人ぢや、祝に下さる物に事かへて生貝とは何事ぢや、生貝は鮑の貝の片思ひと云ふやないか、私の所は延喜を祝ふて嫁を貰ひました。片思ひは不縁の基、兩思ひぢやなければどむならん、持つて歸つとくれ」

「腹がペコ／＼で」

「お前の腹のペコ／＼を知つたかい」

「お祝儀ためを」

「祝も貰はんに祝儀を入れる馬鹿があるか、早う持つて歸んでくれ、延喜の悪い」

「そんな無茶を仕たらどむならん、それみい放つたさかい三杯の生貝が四杯になつたがな」

「あんじよう見なはれ、一ツは猫の碗ぢや」

「腹が空いてるよつてに眼も見えん」